

第180回 令和8年2月20日（金）

「パターナリズムのリスクについて」

ウクライナに対するロシアの侵略行為やガザ地区へのイスラエルの攻撃が長期化する中で米国によるベネズエラへの攻撃が起きました。どのような理由であれ、国家の主権を無視してしまうやり方には疑問を覚えます。

アメリカはほかの領土にも介入することを言及しています。中国が抱える台湾問題やロシアのウクライナ問題に少なからず影響してしまうことは確実です。力による現状変更が許されるのであれば帝国主義に戻るようになってしまうような気がします。

新自由主義によって当面安定していた資本主義がアメリカの物価高や中国の景気低迷によって揺られています。先進国の人口が減少する中で市場は限定的ですし、資源や消費者を得るために力を使用し始めることは今までもあったことです。その結果奪い合いが始まり世界大戦につながりました。

植民地支配を基本としたプランテーションは発展途上国を下に見る誤ったパターナリズムを生み出しました。法による支配が確立したと思われる現代においても意識の中でこのようなパターナリズムが潜在している限り、結局同じ歴史を繰り返してしまうのかもしれない。

治安の問題で渡航禁止になっていたり、注意情報が出ていたりする国も多いのですが、それでも観光地化されていない場所を訪れることは意識を変革するためにとっても有効です。もちろん現地に詳しいガイドなどを随行させるなど安全対策は必要ですが、知ることによって誤ったパターナリズムから抜け出すことができます。

私はパプア＝ニューギニアを訪問して政治でも教育でもインフラでもまだ十分ではないところを見ました。しかし行く前は支援・援助の視点を持っていましたが、帰国後は同国に学ぶべき点がものすごく多かったことに驚きました。発展することやインフラが整うことが国のレベルに直結するわけではないということがわかりました。

「あの国は犯罪国家だから政治に介入する必要がある」という建前で本音はその国の資源を自国でコントロールする。「あそこの家はお金持ちだが主人がしっかりしていないから私が介入する」といって他人の家に踏み込んだら犯罪です。いま起きていることは同じレベルの問題だと思います。

世界を帝国主義の時代に戻してはいけないと思っています。また優生思想に基づく上から目線の政策も改めるべきです。日本の立場は微妙です。だからこそ日本が示す方向性は世界にとってとても重要になると考えています。